

## 後期博士課程科目

科目番号	科目名	開講期・曜日・時限	教員名	単位数	授業コード	科目ナンバー
------	-----	-----------	-----	-----	-------	--------

### ■哲学歴史学専攻

D1	哲学論文指導	前・後月1	高梨・仲原	12単位	LD00010010・20	LAPHL4701
D2	日本史学論文指導	前・後水1	岸本・塚田・仁木・佐賀	12単位	LD00020010・20	LJPH4701
D3	東洋史学論文指導	前・後月5	平田・野村	12単位	LD00030010・20	LAWHE4701
D4	西洋史学論文指導	前・後木5	北村・草生	12単位	LD00040010・20	LAWHW4701

### ■人間行動学専攻

D5	社会学論文指導	前・後木5	伊地知・進藤・石田・川野	12単位	LD00050010・20	LBSOC4701
D6	心理学論文指導	前・後水5	山・池上	12単位	LD00060010・20	LBPSY4701
D7	教育学論文指導	前・後月1	添田・柏木	12単位	LD00070010・20	LBEDU4701
D8	地理学論文指導	前・後火5	大場・水内・山崎(孝)・祖田	12単位	LD00080010・20	LBGEO4701

### ■言語文化学専攻

D9	国語国文学論文指導	前・後木5	丹羽・小林・久堀	12単位	LD00090010・20	LCJPN4701
D10	中国語中国文学論文指導	前・後月1	松浦・岩本・張	12単位	LD00100010・20	LCCHN4701
D11	英語英米文学論文指導	前・後水5	杉井・田中(孝)	12単位	LD00110010・20	LCENG4701
D14	ドイツ語フランス語圏言語文化学論文指導	前・後木5	高井・福島	12単位	LD00170010・20	LCDFX4701
D15	言語応用学論文指導	前・後水5	関・井狩・山崎(雅)・田中(一)	12単位	LD00180010・20	LCLNG4702
D16	表現文化学論文指導	前・後金4	小田中・野末・高島	12単位	LD00150010・20	LCART4701

### ■アジア都市文化学専攻

D17	アジア都市文化学論文指導	前・後月1	野崎・多和田・菅原・増田	12単位	LD00160010・20	LDASA4701
D18	アジア比較文化学特論 I	後水1	野崎	2単位	LD00280010	LDASA4702
D19	アジア比較文化学特論 II	後水5	増田	2単位	LD00290010	LDASA4703
D20	アジア都市文化学特論 I	後火3	菅原	2単位	LD00300010	LDASA4704
D21	アジア都市文化学特論 II	後火2	多和田	2単位	LD00310010	LDASA4705

授業科目名	科目NO.	LAPHL4701	授業コード	LD00010010,20
哲学論文指導 Thesis Guidance in Philosophy			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	高梨 友宏、仲原 孝			

●**科目の主題**

哲学、哲学史、倫理学、宗教哲学、美学の諸問題を主たるテーマとする博士論文の作成に必要な指導を行う。

●**到達目標**

博士論文の完成を目標とする。

●**授業内容・授業計画**

授業を研究発表の機会とし、そこで、哲学固有の考え方、論文構成の手法、必要な資料の扱い方などについて、博士論文作成のための具体的な指導を行う。学会発表や論文投稿を通じて業績を積み重ねるためのアドバイスを与えるとともに、具体的なテーマに則しつつ、論文指導を行う。各担当者の指導内容は以下の通り。

(仲原孝教授) 哲学を宗教との関連で考察することに比重を置きながらも、それにとどまらず広く哲学・哲学史・宗教哲学・倫理学全般の研究に関して、文献の精密な読解と最新の研究成果に対する幅広い知見にもとづいた博士論文の作成のための指導を行う。

(高梨友宏教授) ドイツ近現代美学・芸術学、京都学派の芸術論に比重を置きながらも、それにとどまらず広く哲学・哲学史・美学・倫理学全般の研究に関して、文献の精密な読解と最新の研究成果に対する幅広い知見にもとづいた博士論文の作成のための指導を行う。

●**事前・事後学習の内容**

毎回、その回の授業に関する要約の作成と、次回までに準備しておくべき課題とを指示するので、それを適切に果たしてから授業に臨むこと。随時、作成した要約や、課題についての報告を、レポートの形で提出するよう求める。

●**評価方法**

担当課題をどの程度適切に果たしたか、授業時の議論にどの程度積極的に参加したか、要求されたレポートは適切であったか、を総合的に考慮して評価する。

●**受講生へのコメント**

学会発表や論文投稿を通じて、積極的かつ着実に業績を積み重ねること。

●**参考文献・教材**

指導の過程で適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH4701	授業コード	LD00020010,20
日本史学論文指導 Thesis Guidance in Japanese History			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	岸本 直文、仁木 宏、塚田 孝、佐賀 朝			

●**科目の主題**

博士論文の指導を行う。

●**到達目標**

3年間の受講を通して博士論文を完成させる。

●**授業内容・授業計画**

1年次では、修士論文をまとめて学術雑誌に発表するとともに、博士論文の研究テーマの設定と研究計画の策定を行う。そのため各学生の研究テーマに即した研究分野の専門書や学術論文の体系的かつ批判的検討を行うとともに、研究テーマとする時代の歴史史料の調査・読解・分析のより高度な応用力の獲得をめざす。1年次終了時には、各自の研究計画書を提出するものとする。

2年次では、研究計画に基づき、各自の研究を遂行する。具体的には、研究テーマに関わる史料の収集を行い、その分析に基づく研究報告を順次行うとともに、その上に立って、2年次終了時には、博士論文作成にむけた中間報告書を提出する。

3年次には、引き続き史料の収集・読解・分析を行い、それらをまとめて博士論文を完成させる。このために博士論文の構成と論述の仕方など具体的な指導を行うこととする。

学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

(岸本直文教授) 主に、考古学分野と古代の研究テーマに関わる修士論文の研究指導を行う。

(仁木 宏教授) 主に、古代から中世にかけての時代の研究テーマに関わる博士論文の研究指導を行う。

(塚田 孝教授) 主に、中世から近世にかけての時代の研究テーマに関わる博士論文の研究指導を行う。

(佐賀 朝教授) 主に、近世から近代にかけての時代の研究テーマに関わる博士論文の研究指導を行う。

●**事前・事後学習の内容**

受講生は、各自の関心と課題設定に沿って、研究を進め、随時報告を行い、博士論文の基礎となる個別論文（各章）を執筆・発表し、それらを踏まえて、最終的に博士論文を完成させる。

●**評価方法**

平常点（出席と研究報告）

●**受講生へのコメント**

博士論文の作成は大きな山である。その山頂に向け一歩ずつ登ってほしい。

●**参考文献・教材**

プリント配布

授業科目名	科目NO.	LAWHE4701	授業コード	LD00030010,20
東洋史学論文指導 Thesis Guidance in Oriental History			単位数	2単位
授業形態 演習	担当教員名	平田 茂樹、野村 親義		

●**科目の主題**

歴史学、東洋史学、各自の研究テーマの特徴を十分に理解したうえで、研究に取り組むことを考える。

●**到達目標**

史料の収集・読解・分析能力、論述能力を高めて、博士論文を段階的に完成させられるようにする。

●**授業内容・授業計画**

1年次では、研究目的・方法を明確にし、博士論文の研究テーマの設定と研究計画の立案を行う。そのため基本的専門書・論文を収集・読解・分析し、史料の所在を確認・収集して、より高度な応用能力の会得を目指す。1年次終了時に、研究計画書を提出するものとする。

2年次では、研究計画に基づき史料の収集・読解・分析を行う。その際、史料解析の問題点を指摘し、データの整理の仕方を会得するよう努める。2年次の終了時に、先行研究の問題点、研究テーマの問題の所在、論文全体の構想を明らかにした中間報告を行うものとする。

3年次では、論文の構成、執筆上の問題点などを指摘しながら、論文の完成を目指す。その際、博士論文の構成と論述の仕方など、具体的な指導を行うこととする。

●**事前・事後学習の内容**

指導を受ける前においては入念な準備報告資料を用意し報告を行い、指導中に指導を受けた点について次回の指導までにきちんと研究を進めさせる。

●**評価方法**

出席（30％）と報告内容（70％）

●**受講生へのコメント**

各自の研究テーマを相対化し、オリジナリティを充分発揮できるようにしてください。

●**参考文献・教材**

随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LAWHW4701	授業コード	LD00040010,20
西洋史学論文指導 Thesis Guidance in Occidental History			単位数	2単位
授業形態 演習	担当教員名	北村 昌史、草生 久嗣		

●**科目の主題**

博士学位論文の作成指導。

●**到達目標**

学界が要求する水準の論文を完成することを目指す。

●**授業内容・授業計画**

1年次では、研究目的・方法を明確にし、博士論文の研究テーマの設定と研究計画の立案を行う。そのため基本的専門書・論文を収集・読解・分析し、史料の所在を確認・収集して、より高度な応用能力の会得を目指す。1年次終了時に、研究計画書を提出するものとする。

2年次では、研究計画に基づき史料の収集・読解・分析を行う。その際、史料解析の問題点を指摘し、データの整理の仕方を会得するよう努める。2年次の終了時に、先行研究の問題点、研究テーマの問題の所在、論文全体の構想を明らかにした中間報告を行うものとする。

3年次では、論文の構成、執筆上の問題点などを指摘しながら、論文の完成を目指す。その際、博士論文の構成と論述の仕方など、具体的な指導を行うこととする。

学生はそのテーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

(草生久嗣教授) 主に、古代から中世に関する研究テーマに関わる博士論文の研究指導を行なう。

(北村昌史教授) 主に、近代から現代に関する研究テーマに関わる博士論文の研究指導を行なう。

●**事前・事後学習の内容**

報告前に資料の作成法について教員の指導を受けること。報告後は報告内容に対する教員の指摘に従って論文内容を再考すること。

●**評価方法**

平常点（出席と研究報告）。

●**受講生へのコメント**

論文内容とともに口頭によるプレゼンテーションの方法にも工夫してほしい。

●**参考文献・教材**

随時指示。

授業科目名	科目NO.	LBSOC4701	授業コード	LD00050010,20
社会学論文指導 Thesis Guidance in Sociology			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	伊地知 紀子、進藤 雄三、石田 佐恵子、川野 英二			

●**科目の主題**

社会学の分野における博士論文の作成に必要な研究上の指導を行う。

●**到達目標**

社会学の分野における博士論文の作成・完成を目標とする。

●**授業内容・授業計画**

1年次は、博士論文の研究課題を考察するために必要な社会学の理論の習得とともに、フィールド・ワークの方法、並びにデータ処理のための分析法に関する広範な知識と技能の習得に努める。このため、学生の研究課題に即した研究分野の専門書や学術論文の批判的検討を行わせ、研究課題に関する計画立案に向けた指導を行う。2年次は、博士論文の研究課題に関連する内外の論文の検討を行いながら、立案した調査計画に基づいて、文献収集、フィールド・ワークを実施し、得られた知見の整理とデータの分析を行う。3年次は、博士論文の研究課題のために行った調査結果をまとめ、博士論文の構成と論述の仕方などを具体的に指導し、博士論文を完成させる。

学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受ける。

●**事前・事後学習の内容**

事前学習:レジュメを作成しておく。

事後学習:指摘された点を確認する。

●**評価方法**

学生による博士論文の内容に関する報告を主な評価対象とする。

●**受講生へのコメント**

特になし。

●**参考文献・教材**

随時指示する。

授業科目名	科目NO.	LBPSY4701	授業コード	LD00060010,20
心理学論文指導 Thesis Guidance in Psychology			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	山 祐嗣、池上 知子			

### ●科目の主題

心理学の各分野のテーマに関する博士論文の作成に必要な基本的事項を指導し、博士論文の完成を目指す。

### ●到達目標

体系的で一貫性の高い長大な論文を作成する能力を形成する。

### ●授業内容・授業計画

1年次は、博士論文の研究課題を考察するために必要な理論的知識の習得、実験・調査などの方法並びにデータ処理のための解析法に関する応用的な知識と技能の習得に努める。このため、各院生の研究課題に即した研究分野の専門書や学術論文の批判的検討を行わせ、研究課題に関する実験・調査の計画の立案に向けた指導を行う。

2年次は、博士論文の研究課題に関連する国内外の論文の検討を行いながら、立案した研究計画に基づいて実験・調査を実施し、集められたデータの解析を行う。こうした研究遂行の指導を通して、博士論文の完成を目指す。

3年次は、博士論文の研究課題のために行った実験・調査のデータをまとめ、博士論文の構成と論述の仕方などを具体的に指導し、博士論文を完成させる。

なお、学生は、各自の研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

〔池上知子教授〕 主に、社会的行動の基礎をなす認知と感情、自己と社会的アイデンティティなど、社会心理学の分野に関する博士論文の指導を行う。

〔山 祐嗣教授〕 主に、思考と推論、認知の文化差など、認知心理学の分野に関する博士論文の指導を行う。

### ●事前・事後学習の内容

受講者は、研究テーマに関連する文献や研究計画の発表、研究結果の中間報告を行うため、事前にレジメを準備する。授業時に受けたコメントや議論の内容を次回の発表に生かすように指示する。

### ●評価方法

平常点によって評価する。

### ●受講生へのコメント

主体的に研究課題を遂行することを期待する。

### ●参考文献・教材

適宜、紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBEDU4701	授業コード	LD00070010,20
教育学論文指導 Thesis Guidance in Education			単位数	2単位
授業形態 講義	担当教員名	添田 晴雄、柏木 敦		

●**科目の主題**

教育学の各分野における学識を深め、かつ博士論文作成へ向けて指導を行う。

●**到達目標**

- 1年次は、博士論文の研究課題遂行に必要な理論や方法に関する基礎的な知識と技能とを習得する。
- 2年次は、博士論文の研究課題遂行に必要な理論や方法に関する応用的・実的な知識と技能とを習得する。
- 3年次は、博士論文の研究課題遂行によって得た研究結果をまとめ、博士論文の構成や論述の方法を習得する。

●**授業内容・授業計画**

1年次は、博士論文の研究課題を考察するために必要な理論や調査等に関する基礎的な知識と技能の習得に努める。各学生の研究課題に即した研究分野の専門書・学術論文の批判的検討を行い、研究課題に関する調査計画の立案に向けた指導を行う。また、研究成果の学会発表や学術雑誌への投稿について基本的な指導を行う。

2年次は、博士論文の研究課題に関する内外の論文の検討を行いながら、立案した研究計画に基づいて、文献収集・フィールドワークを実施し、集めたデータや資料の分析を行う。こうした研究遂行を通して、博士論文の完成を目指す。1年次に引き続いて、研究発表及び論文投稿について指導する。

3年次は、博士論文の研究課題のために行った調査結果をまとめ、博士論文の構成と論述の仕方などを具体的に指導し、博士論文を完成させる。必要に応じて、研究発表ならびに論文投稿について指導する。学生はその研究テーマに応じて教員の指導を受けるものとする。

●**事前・事後学習の内容**

個別に指示する。

●**評価方法**

平常点で行う。特に、学会での研究発表、学会誌投稿への努力や成果を考慮する。

●**受講生へのコメント**

特になし。

●**参考文献・教材**

特になし。



授業科目名	科目NO.	LBGEO4701	授業コード	LD00080010,20
地理学論文指導 Thesis Guidance in Geography			単位数	2単位
授業形態 演習	担当教員名	大場 茂明、山崎 孝史、水内 俊雄、祖田 亮次		

### ●科目の主題

博士論文作成に必要な研究指導を行う。

### ●到達目標

1年次は、博士論文の研究課題を確定し、課題の考察に必要な方法論の習得とともに、フィールドワークの技法やデータ処理のための分析手法を身につけることに重点を置く。このため、院生の研究課題に即した専門分野の学術書や論文の批判的研究を行いつつ、研究・調査計画の立案に向けた指導を行う。

2年次は、博士論文の研究課題に関連する内外の論文の検討を行いながら、立案した研究計画に基づいて資料収集とフィールドワークを実施し、得られた資料・データの整理と分析を行う。こうした研究遂行の指導を通じて、博士論文の完成をめざす。

3年次は、博士論文の研究課題のために行った調査結果をまとめ、論文の構成と論述の仕方などを具体的に指導し、博士論文を完成させる。

### ●授業内容・授業計画

受講者の専門分野に応じて指導担当教員を定め、個別指導を行う。担当教員の主たる指導分野は下記の通りである。

- (大場茂明教授) 主に地域地理学、都市政策に関する博士論文の指導を行う。
- (水内俊雄教授) 主に都市地理学、社会地理学に関する博士論文の指導を行う。
- (山崎孝史教授) 主に政治地理学、地域研究に関する博士論文の指導を行う。
- (祖田亮次教授) 主に環境地理学、資源論に関する博士論文の指導を行う。

第1回 授業の進め方

第2回～第4回 研究計画の作成と発表

第5回～第14回 研究状況の中間報告

第15回 まとめ

### ●事前・事後学習の内容

受講に際しては、指導教員の指示に基づき、事前に十分な準備を行った上で臨むこと。また、指導の終了後には、指摘されたコメントをもとに研究計画の修正を行い、次回の報告に備えること。

### ●評価方法

研究成果の蓄積と発表状況による。

### ●受講生へのコメント

所定の在学年限内に博士論文を提出できるよう研究計画を立てて、着実に成果を蓄積してほしい。

### ●参考文献・教材

必要に応じて、授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN4701	授業コード	LD00090010,20
国語国文学論文指導 Thesis Guidance in Japanese Language and Literature			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	丹羽 哲也、小林 直樹、久堀 裕朗			

●**科目の主題**

国語学・国文学の博士論文作成のための指導を行う。

●**到達目標**

博士論文を完成する。

●**授業内容・授業計画**

1年次は、博士論文のために必要な方法論、調査や分析の進め方などに関する知識や技能の習得をはかる。先行の研究理論や研究成果について批判的に検討を加えるとともに、それぞれの研究計画の立案に向けた指導を行う。

2年次は、各人の主題と方法に応じて先行の研究理論や研究成果について批判的に検討を加えるとともに、それぞれの研究計画の具体化に向けた指導を行う。

3年次は、各人の主題と方法に応じて、学会の水準と最新の成果を踏まえて、それぞれの研究計画の実現をはかる。

学生はそれぞれの研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

(小林直樹教授・久堀裕朗教授) 国文学に関する指導を行う。

(丹羽哲也教授) 国語学に関する指導を行う。

●**事前・事後学習の内容**

研究テーマについての考察を深め、博士論文を完成させる。

●**評価方法**

平常点や研究報告による。

●**受講生へのコメント**

指導教員に指導を受けるのは当然だが、それだけでなく、外部で積極的に研究発表を行い、自らを客観的に見つめる機会を持つようにすること。

●**参考文献・教材**

指導教員が助言もするが、当然ながら、必要な資料や先行研究を博捜することも研究の一環である。

授業科目名	科目NO.	LCCHN4701	授業コード	LD00100010,20
中国語中国文学論文指導 Thesis Guidance in Chinese Language and Literature			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義／演習	岩本 眞理、松浦 恆雄、張 新民			

●**科目の主題**

中国語学・中国文学・中国文化に関わる博士論文作成のための指導。

●**到達目標**

各自が博士論文執筆に向けて解決しなければならない諸課題を取り上げ、3年間で博士論文を書き上げることができるよう指導する。

●**授業内容・授業計画**

1年次は、修士論文で扱った課題の達成状況を確認し、それを踏まえて新たな研究課題を設定し、文献の読解、資料の調査、整理に当たらせる。一方で修士論文の内容を整理させ、学術論文として公表させる。その作業を通じて、学術論文の書き方の指導を行う。また関連する学会での口頭発表も行わせる。

2年次は、1年次に取り組んだ新たな課題に関して問題点を整理させ、主要なテーマに絞って、学術論文として公表させる。その作業を通じて、新たなテーマに到達するよう指導する。

3年次は、2年次に得た新たなテーマについて研究を進め、学術論文としてまとめさせる一方、これまでの研究を総合する形での過程博士論文の執筆に当たらせる。院生はその研究テーマに応じ、複数教員の指導を受ける。

(松浦恆雄教授) 中国近現代分野の課題に関する論文指導を行う。

(岩本眞理教授) 中国語学分野の課題に関する論文指導を行う。

(張新民教授) 中国文化学分野の課題に関する論文指導を行う。

●**事前・事後学習の内容**

毎回、前回の指導内容を踏まえて、論文執筆のための報告内容を準備しておくこと。

●**評価方法**

平常点による。

●**受講生へのコメント**

学内の発表だけでなく、積極的に関連学会に参加して討論に参加することで、新たな視点を獲得してほしい。

●**参考文献・教材**

適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LCENG4701	授業コード	LD00110010,20
英語英米文学論文指導 Supervision of Ph.D. Thesis in English and American Language and Literature			単位数	2単位
授業形態 演習	担当教員名 田中 孝信、杉井 正史			

●**科目の主題**

英語圏の文学・文化に関する博士論文作成の指導。

●**到達目標**

博士論文の完成。

●**授業内容・授業計画**

1年次は博士論文の研究テーマを設定させ、論文作成のために必要な先行研究の評価法、アイデア提示の方法などを指導する。

2年次は、選択した研究テーマがいつそう明確なものとなるよう指導し、博士論文の構築法と精密な分析法を習得させ、中間発表の場を設けて相互批判の場とする。

3年次は、博士論文作成の過程を見ながら、草稿の検討や推敲を通じ、個別に綿密な指導を行ない、論文を完成させる。また、学会発表や紀要への投稿等の形で研究発表を行なわせる。学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

(田中孝信教授) 英文学、特に小説に関する博士論文作成のための指導を行なう。

(杉井正史教授) 英文学、特に演劇に関する博士論文作成のための指導を行なう。

●**事前・事後学習の内容**

授業までに、指定された学術論文等の教材内容を詳細に把握し、それに対する自分の意見を批判的にまとめ、ハンドアウトを用いて発表できるように準備しておくこと。授業後は、教員や他の受講生の見解を咀嚼することで、自らの思考方法の問題点を整理した上で、関連文献を渉猟しながら論展開をより説得力のあるものにしなければならない。そうした訓練を積むことで、質の高い博士論文の作成が叶うのである。そのためには、各授業の前後にそれぞれ3時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●**評価方法**

研究報告・平常点。

●**受講生へのコメント**

積極的な学会発表や論文投稿を通じて着実に業績を積み重ねるように希望する。

●**参考文献・教材**

指導の過程で適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LCART4701	授業コード	LD00150010,20
表現文化学論文指導 Thesis Guidance in Cultural Studies			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	高島 葉子、小田中 章浩、野末 紀之			

●**科目の主題**

前期に引き続き、博士論文作成に関する指導を行う。

●**到達目標**

前期での指導を踏まえ、博士論文執筆に必要な知見を習得させ、博士論文を完成させる。

●**授業内容・授業計画**

1年次は、研究課題を決定し、論文作成のために必要な理論や、文献・資料の調査・研究の方法を学ばせる。また修士論文の内容をさらに発展させて論文にまとめ、学会誌への執筆・学会等での発表を指導する。

2年次は、1年次で学んだことをふまえて、博士論文の作成にむけて具体的な計画を提出させる。研究課題に関する多数の論文等を比較検討し、独自の明確な論点を定め、一貫した研究方法で論文作成に取り掛かるよう指導する。博士論文の一部を公表させる。

3年次は、論文の作成に即して、構成や論述の仕方等について具体的に指導を行う。学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

(小田中章浩教授) 現代フランス演劇、19世紀から20世紀にかけてのフランスを中心とした現代西洋の表象文化、および日本と西洋に共通した演劇のテーマ的研究(復讐と演劇、アウトローと演劇など)について、研究指導を行う。

(野末紀之教授) 19世紀末以後のイギリスを中心とする西欧文化におけるジェンダーおよびセクシュアリティの表現にかんして研究指導を行う。

(高島葉子教授) 民間説話・民間伝承、児童文学・文化に関連する分野について研究指導を行う。

●**事前・事後学習の内容**

発表担当者は、書く発表のための事前(レジュメ作成を含む)および事後学習に、4時間程度を要する。

●**評価方法**

授業中の発表、および質疑応答によって評価する。

●**受講生へのコメント**

特になし。

●**参考文献・教材**

適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LCDFX4701	授業コード	LD00170010,20
ドイツ語フランス語圏言語文化学論文指導 Thesis Guidance in German Language and Literature			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	福島 祥行、高井 絹子			

●**科目の主題**

ドイツ語圏およびフランス語圏の文学・語学・文化の分野における博士論文の作成に必要な研究上の指導を行う。

●**到達目標**

博士論文を完成に至らしめる。

●**授業内容・授業計画**

1年次は博士論文の研究テーマを設定し、それに関わる問題意識を熟成させていく。このためにテーマに関わるテキストの精読を行い、関連する文献を収集し検討する。また各種研究方法についての検討も行う。こうして論文の一部をなす、あるいは論文の基礎となるような予備研究を仕上げる。

2年次は、さらに研究テーマを明確にし、論文の構成について概略を定め、一貫性のある研究方法を取りつつ論文作成の作業に取りかかる。そして博士論文の一部分をなす研究を仕上げる。

3年次は、1・2年次の研究成果をもとに研究テーマを体系的な形で論述し、博士論文として完成させる。この間3年間にわたって、研究テーマと研究方法、さらに論の構成や論述の仕方に至るまで、論文作成の指導を行う。学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

(高井絹子教授) ドイツ語圏学に関して、歴史的、社会的、文化的問題意識をもち、広い視野に立った博士論文が完成できるよう、適切な指導を行う。

(福島祥行教授) フランス語圏学に関して、社会的、文化的、歴史的な問題意識をもち、広い視野に立った博士論文が完成できるよう、適切な指導を行う。

●**事前・事後学習の内容**

事前に発表の準備をすること、および、事後のふりかえり等により、1回の授業あたり2時間以上の自習時間をとること。

●**評価方法**

平常点とレポートにより、総合的に評価する。

●**受講生へのコメント**

特になし。

●**参考文献・教材**

適宜、参考文献を紹介する。

授業科目名	科目NO.	LCLNG4702	授業コード	LD00180010,20
言語応用学論文指導 Thesis Guidance in Linguistics Applied			単位数	2単位
授業形態 演習	担当教員名 田中 一彦、関 茂樹、井狩 幸男、山崎 雅人			

●**科目の主題**

言語構造論・神経心理言語学・語用論・英語語法研究などを研究する人材育成のため、博士論文の作成指導だけでなく、関連する様々な研究活動についても助言・指導を行う。

●**到達目標**

各自のテーマの設定と今後の研究方針の決定。

●**授業内容・授業計画**

第1年次初期には、修士論文などを参考にしながら、学生が後期博士課程において研究すべき内容について指導し、博士論文作成にかかわる3年間の研究計画を立てさせる。

第1年次の後半および第2年次には、博士論文作成に必要な理論、文献などについて指導し、論文作成の過程を見ながら、各要所で学術的な議論構築の方法について助言する。

第3年次には論文草稿を読んで長所短所を指摘し、全面推敲させるという過程を繰り返す。その間、論文内容にかかわる先行研究について」さらに学ばせ、充実した論文の完成へ導く。学生はその研究テーマに応じて、下記のいずれかの教員の指導を受けるものとする。

(関 茂樹教授) 主に語用論の分野のテーマについて、関連する先行研究と重要な文献について指導し、当該の分野に貢献する論文が完成できるように、指導を行う。

(井狩幸男教授) 神経心理言語学の立場から、母語獲得、第二言語習得、バイリンガリズム、失語症、失読症などにおいて観察されるさまざまな言語現象を通して、人間にとって言語とは何かという問題を検討し、同時に、言語への応用を探る研究の指導を行う。

(山崎雅人教授) 言語類型論と認知言語学の視点から諸言語の多様性を貫く原理の分布状況を考察し、様々なデータを一貫した論理に基づいて分析する論考を構築できるように指導する。

(田中一彦教授) 伝統的な言語理論を考慮しつつ、現代の代表的な言語理論を考察する。主に、小説・新聞・雑誌などを言語資料として、特定の言語現象を意味論、語用論、さらには談話といった多角的側面から分析できるように指導する。

●**事前・事後学習の内容**

受講に際しては、指導教員の指示に基づき、事前に十分な準備を行った上で臨むこと。また、指導の終了後には、指摘されたコメントをもとに論文の改良に努めること。

●**評価方法**

平常点による。

●**受講生へのコメント**

各自の研究テーマに関して、できるだけ多様な角度から考察することを目標としたい。

●**参考文献・教材**

担当教員が個別に指示する。

授業科目名	科目NO.	LDASA4701	授業コード	LD00160010,20
アジア都市文化学論文指導 Thesis Guidance in Asian Culture and Urbanism			単位数	2単位
授業形態 演習	担当教員名 増田 聡、多和田 裕司、野崎 充彦、菅原 真弓			

●**科目の主題**

アジア都市文化学に関する博士論文作成に向けての研究指導を行う。

●**到達目標**

1年次は、博士論文の研究課題を考察するために必要な研究方法を確立させる。文献研究、フィールドワークに加えて、感性論的方法、対話的方法などによって自分の研究課題に即した研究の計画を立案させ、立案した計画に基づいて、アジア諸国・諸地域の調査・研究機関のもとで、文献収集やフィールドワークを実施させる。

2年次は、集められたデータや資料の分析を行わせ、研究発表や学会発表を重ねて論文作成の構想を練る。

3年次は、博士論文の作成のために行った調査結果に基づき、論文の構成と論述の仕方などを具体的に指導し、博士論文をまとめさせる。学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

●**授業内容・授業計画**

(野崎充彦教授) 韓国・朝鮮文化に関する研究テーマを追求するうえで、歴史的・文化的に関わりの深い中国・日本との比較的視野を保持し、現代日本においてコリア文化研究に携わる意義についての自覚を促しつつ、個性的な研究成果をめざす。

(多和田裕司教授) 主に、東南アジアの地域文化論、宗教文化論に関する博士論文の指導を行う。

(菅原真弓教授) 主に、日本および東アジア地域の文化資源に関する博士論文の指導を行う。

(増田聡教授) 主に、日本および東アジア地域の大衆音楽・大衆文化に関する博士論文の指導を行う。

●**事前・事後学習の内容**

指導教員の指示に従い、事前にレジュメなどの資料を作成したうえで授業に臨み、指導に従って適宜、内容を修正し、報告すること。

●**評価方法**

平常点によって評価を行う。

●**受講生へのコメント**

特になし。

●**参考文献・教材**

授業内で指示する。



授業科目名	科目NO.	LDASA4702	授業コード	LD00280010
アジア比較文化学特論 I Comparative Study of Asian Culture I			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	野崎 充彦			

●**科目の主題**

現代韓国社会の変貌

●**到達目標**

現代韓国社会の変貌についてさまざまな側面からアプローチする。

●**授業内容・授業計画**

1. 解放から分断国家へ
2. 軍事独裁制の光と影
3. 高度経済成長と社会変貌
4. 大衆化社会の登場
5. 韓流と東アジア
6. 今後の展望

●**事前・事後学習の内容**

事前配布の資料には必ず目を通し、質疑応答に備えること。  
疑問点は授業中に解決し、レポート作成に反映させること。

●**評価方法**

出席とレポート

●**受講生へのコメント**

文献のみならず、フィールドワークも重視するので、積極的な参加を求める。

●**参考文献・教材**

随時、提示する。

授業科目名	科目NO.	授業コード	LD00290010	
アジア比較文化学特論 II Comparative Study of Asian Culture II			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	増田 聡			

●**科目の主題**

日本および東アジア（中国・韓国・台湾など）の大衆音楽とそれを取り巻く社会環境について、比較文化的な見地から講じるとともに、受講生の能力と関心に応じてそこへのアプローチについて討議する。

●**到達目標**

博士論文作成のために必要となる比較文化的知見を獲得する。

●**授業内容・授業計画**

- ・イントロダクション
- ・文献購読および討議
- ・日本の大衆音楽文化について
- ・東アジアの大衆音楽文化について

受講生の能力と関心に応じて授業内容は適宜変更する。

●**事前・事後学習の内容**

授業内の討議において取り上げられた作品、人物、研究文献について、ウェブ上のリソースも用いつつ自主的に調査しておくこと。

●**評価方法**

平常点による評価。

●**受講生へのコメント**

博士論文執筆において必要となる幅広い知見を育成するので、積極的に授業に参加してほしい。

●**参考文献・教材**

授業内で指示する。

授業科目名	科目NO.	LDASA4704	授業コード	LD00300010
アジア都市文化学特論 I Study of Urban Culture in Asia I			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	菅原 真弓			

●**科目の主題**

日本の文化資源（主に表象文化）の歴史をテーマとする。その際、対外関係、特にアジア諸国との関係性を重視する。

●**到達目標**

アジアの中の日本であることを意識した上で、日本文化についての理解を深める。

●**授業内容・授業計画**

日本の文化資源に関する現在の研究について紹介し、課題論文を提示する。受講者はこれを精読し、各回の担当者が論文内容について報告を行い、これについて教員が解説する。なお受講生の研究テーマも鑑み、なるべく研究に益する方向性の論文を課題とすることにする。

詳細は第一回目の授業時に相談。

●**事前・事後学習の内容**

事前に課題論文の精読を各自行っておくこと。また、各回の受講者による報告に際して質問、意見等が発信できるよう予習をしておくこと。

事後は課題論文の内容や方法論を自らの研究テーマに生かせるよう検討する。

●**評価方法**

平常点によって評価する

●**受講生へのコメント**

受講希望者は授業についての打ち合わせを行うので、必ず事前に菅原まで連絡すること。

●**参考文献・教材**

授業中に指示する

授業科目名	科目NO.	LDASA4705	授業コード	LD00310010
アジア都市文化学特論 II Study of Urban Culture in Asia II			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	多和田 裕司			

●**科目の主題**

東南アジアにおける宗教についての文化人類学ならびに隣接分野の最新の研究動向を把握する。とくに近年の経済発展にともなう東南アジア都市社会の変容を視野に入れながら、消費社会と宗教実践の相関、市民社会における宗教の制度化、ナショナリズムと宗教実践などについて検討する。

●**到達目標**

受講者に東南アジア宗教研究の最新の動向を把握させるとともに、先行研究にたいする批判的読解力を身につけさせる。

●**授業内容・授業計画**

上記主題に即した英語の文献を演習形式で読み進める。各回の授業は受講生による文献内容の報告、教員による解説、全員での討論によって進めていく。文献の選択は、受講生の研究テーマも考慮した上で、第1回目の授業時に決定する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 消費社会と宗教実践の相関（概説）
- 第3回 消費社会と宗教実践の相関にかんする文献講読(1)
- 第4回 消費社会と宗教実践の相関にかんする文献講読(2)
- 第5回 消費社会と宗教実践の相関にかんする文献講読(3)
- 第6回 市民社会における宗教の制度化（概説）
- 第7回 市民社会における宗教の制度化にかんする文献講読(1)
- 第8回 市民社会における宗教の制度化にかんする文献講読(2)
- 第9回 市民社会における宗教の制度化にかんする文献講読(3)
- 第10回 ナショナリズムと宗教実践（概説）
- 第11回 ナショナリズムと宗教実践にかんする文献講読(1)
- 第12回 ナショナリズムと宗教実践にかんする文献講読(2)
- 第13回 ナショナリズムと宗教実践にかんする文献講読(3)
- 第14回 講義の総括

●**事前・事後学習の内容**

課題文献を熟読し、論点の整理や問題点の洗い出し、自らの研究テーマとの関連の上での評価などを行っておくこと。

●**評価方法**

平常点によって評価を行う。

●**受講生へのコメント**

受講希望者は授業についての打ち合わせを行うので、必ず事前に多和田まで連絡すること。

●**参考文献・教材**

授業中に指示する。